

## 折り紙大使 / 同じ空の下で / 姿二小環境会議を開こう(宇都宮市立姿川第二小学校 樽井里実)

### 【実践者】



氏名	樽井 里実	学校名	栃木県 宇都宮市立姿川第二小学校
担当教科等	全科(外国語・理科・ 図画工作・音楽を除く)	対象学年(人数)	5年生(132名)
実践年月日もしくは期間(時数)	R5年7月 ~ R5年1月(4時間)		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域:国際理解教育(道徳・総合的な学習の時間(以下:総合)との関連)		
2. 単元(活動)名:道徳「折り紙大使」(国際理解、国際親善) 道徳「同じ空の下で」(国際理解、国際親善) 総合「姿二小環境会議を開こう」		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ:「自分や世界中の人々が笑顔で生活していくためには」 単元目標(国際理解教育高学年目標): ・世界の人々の生活や文化を理解し、異なる文化への関心を高め、それを尊重する気持ちをもてるようにする。 ・温かい思いやりの心を態度に表し、相手の身になって考えようとする。 ・世界の平和に役立つ様々な活動や仕組みについて知り、進んで協力しようとする。  関連する学習指導要領上の目標: ・道徳 国際理解、国際親善〔第5学年及び第6学年〕 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めようとする。 ・総合 (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解できるようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	世界の人々の生活や文化を理解し、異なる文化への関心を高め、それを尊重しようとしている。
	②思考力、判断力、 表現力等	温かい思いやりの心を態度に表せるよう、相手の身になって考えることができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	世界の平和に役立つ様々な活動や仕組みについて知り、進んで協力しようとしている。


<p>5. 単元設定の理由・ねらいとする道徳的価値 (児童観、教材観、指導観)</p>	<p><b>【単元設定の理由】</b> グローバル化の進展によって、多様な文化的背景や価値観をもつ人々を尊重し、共に生きる社会を構築していくことは必要不可欠である。また、地球規模の問題が年々深刻化してきており、これらの問題を考えていく際には国際理解、国際親善の視点は欠かせない。そこで、道徳「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の「国際理解、国際親善」の内容と総合「姿二小環境会議を開こう」とを関連させた単元展開とすることで、持続可能な社会の創り手として必要な資質能力を高めていけるようにする。</p> <p><b>【単元の意義】</b> 本単元で培った考え方をSDGsの視点を取り入れた総合の探究学習に生かしていけるような単元展開にする。 単元計画2時間目(本時)の道徳では、ラオスでの事例をもとに国際親善に努めようとする心情を育てるとともに、「自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために大切なことは何か」という問いを残すオープンエンド型にする。このようにすることによって、単元計画3時間目・総合の授業や本単元と並行して行っているSDGsの視点を取り入れた総合の学習に課題意識をもって臨めるようにする。 また、単元計画3時間目・総合の学習では、ラオスで昆虫食文化を生かして栄養状態の改善に取り組む活動をされているISAPH石塚貴章さん(JICA海外協力隊経験者)を招き、ラオスで活動を行う上での思いや願い、苦労や喜びなどについて直接話をうかがい、児童の国際理解、国際親善への意識を高められるようにする。そして、単元の最後に、本単元での学びや総合の学びを振り返ることによって、児童が自身の変容や成長に気付けるようにする。</p> <p><b>【児童観】</b> 本校5年生は、社会科の学習を通して世界にはたくさんの国々があることや自分たちの生活に外国とのつながりは欠かせないことを学んできた。しかしながら、外国や異文化と関わる生活体験は少なく、外国の異なる文化への親しみは全体的に薄い。時にテレビやインターネットなどで得た情報をもとに外国や外国人に対して偏った見方や発言をしてしまうこともある。そこでラオスの事例を通して、自分たちと外国の人々は違うところだけではなく似ているところもあることに気付かせ、国際理解や国際親善の態度や心情を育ていけるようにする。 また、国語科の「環境問題について報告しよう」において、様々な環境問題の問題点や原因、対策を調べ、まとめる学習をしてきたが、環境問題への対策として述べた取組を意識して生活している児童が多いとは言えない。そこで、総合の学習で環境問題を捉え直し、これらの問題が自分たちの生活と結びついていることを実感できるようにしていく。環境問題に対して具体的に取り組んでいけるようにすることで、国際理解、国際親善への態度と実践力を育ていけるようにする。</p> <p><b>【指導観】</b> ラオスの事例(ラオスの写真や教師・ISAPH石塚貴章さんの体験談)から日本との相違点や共通点を具体的、共感的に捉えられるようにする。特に相違点を捉えるときには、児童の自然な反応を尊重しながらも、異なる文化と関わる際により望ましい自分自身のあり方や言動を考えたい。また、共通点を考えていくときには、人の願いや思い、感情に目を向けられるようにすることで、違いがたくさんある外国の人々も自分たちと同じ心をもっていることに気付けるようにする。 また、本単元と並行して行っている総合の環境問題に関する学習と関連させることで、よりよい世界をつくっていくための創り手として必要な力や経験を積み重ねていけるようにする。</p>
---	---

6. 単元計画(全4時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	道徳「折り紙大使」	日本人としての自覚をもって、積極的に外国の人々に関わり、国際親善に努めようとする心情を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>教材文「折り紙大使」を読み、折り紙大使・加瀬さんの思いを考え、全体で共有する。</li> <li>自分が外国の人々に伝えたい日本の文化について考え、全体で共有する。</li> <li>日本の文化・七夕をラオスの小学生に紹介することを伝え、自分の願いを短冊に記入する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書「新訂新しい道徳5」</li> <li>ラオスの基本情報に関するパワーポイント</li> </ul>

			 <p>【短冊に自分の願いを記入する様子】</p>	
2 本時	道徳 「同じ空の下で」	他国のの人々や異文化について理解し、国際親善に努めようとする心情を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ラオスの写真から自分たちと違うところや似ているところを考える。</li> <li>2 教材文「同じ空の下で」を読み、他の国の人たちと自分たちとの違うところや似ているところは何かを考える。</li> <li>3 異なる文化とのかかわり方について考える。</li> <li>4 教材文の続きを読み、自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために大切なことは何かを考える。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書「新訂新しい道徳5」</li> <li>・ラオスの写真</li> </ul>
3	総合 「姿二小環境会議を開こう」	外国の人たちと共に幸せに生きていくために大切なことは何かを体験談を聞きながら考え、国際理解や国際親善への素地を高めることで、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ISAPH 石塚貴章さん(JICA 海外協力隊経験者)の話聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの人々の生活</li> <li>・ラオスでの活動とSDGsとの関わり</li> <li>・石塚さんの思いや大切にしていること</li> </ul> </li> <li>2 質疑応答</li> </ol>  <p>【ISAPH 石塚さんに質問する様子】</p>	
4	総合 「姿二小環境会議を開こう」	自分の活動を振り返り、自分のよさや自己の成長に気付くとともに、これからの生活に生かそうとしている。	<p>単元全体の振り返りを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループごとに考えた誰もが無理なく続けられる、持続可能な企画を実践したことへの振り返りを行う。</li> <li>2 「自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために大切なことは何か」に対する自分の考えをまとめる。</li> <li>3 自分のよさや自己の成長を自己評価する。</li> </ol>	

7. 本時の展開(2時間目)道徳

本時のねらい:他国の人々や異文化について理解し、国際親善に努めようとする心情を育てる。

過程	学習活動	指導上の留意点	資料(教材)
<p><b>導入</b> (5分)</p>	<p>1 知っている国とその国から連想されることについて発表する。</p>	<p>・国名とその国の有名なものについて発表させることで、外国への関心を高められるようにする。</p>	<p>・世界地図</p>
<p><b>展開</b> (30分)</p>	<p>2 ラオスの写真から自分たちと違うところや似ているところを考え、付箋に記入する。                      〈違うところ〉                      ・言葉 ・服装                      ・食べ物 ・学校の様子                      〈似ているところ〉                      ・食べ物 ・夢                      ・家族を大切にしている。                      ・住んでいるところのよさを知っている。</p>  <p>【フォトランゲージで自分たちとの相違点や共通点を考えている様子】</p> <p>3 教材文「同じ空の下で」を読み、他の国の人たちと自分たちとの違うところや似ているところは何かを考え、発表する。                      〈違うところ〉                      ・あいさつの仕方                      〈同じところ〉                      ・気持ち ・大切なもの</p> <p>4 異なる文化とのかかわり方について考え、スクールタクトに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>文化がちがう外国の人たちとどのようにかかわっていきたいですか。</p> </div> <p>・違うところも受け入れていきたい。                      ・相手の気持ちを考えていきたい。</p>	<p>・教師が体験したラオスでの出来事を紹介することで日本との違いを肯定的に受容できるようにする。                      ・ラオスの小学生の夢やラオスの小学生が考えているラオスのよさについて知ることで、自分たちと違うところだけではなく、同じ思いや考えをもっていることに気付けるようにする。</p> <p>・教材文「同じ空の下で」の途中までを読み、ラオスの人々だけではなく、世界各地の人々も自分たちと違うところや同じところがあることに気付けるようにする。</p> <p>・本時の授業での反応やこれまでの自分自身を振り返らせることで、文化が異なる人々とどのようにかかわっていきたいかを考えられるようにする。</p>	<p>・ラオスの写真                      ・付箋                      ・ラオスの小学生の夢やラオスのよいところが書かれている写真</p> <p>・教材文「同じ空の下で」</p> <p>・一人一台端末</p>
<p><b>終末</b> (10分)</p>	<p>5 教材文の続きを読み、自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために大切なことは何かを考え、スクールタクト</p>	<p>・教材文の続きにある「死んでしまう子どもがいる。」「『同じ』子どもたちが、今、たくさんのなみだを</p>	<p>・一人一台端末</p>

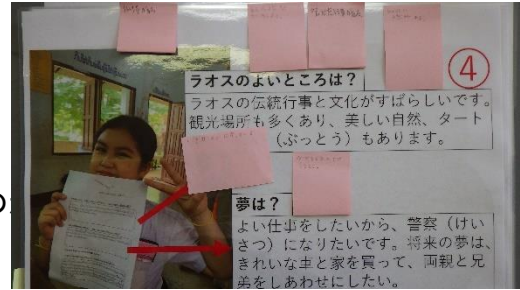
	<p>に記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・争いをなくす。</li> <li>・寄付をする。</li> <li>・食品ロスを減らす。</li> </ul>	<p>流している。」という言葉から、自分や世界中の人々が幸せに生活していくために必要なことや大切なことは何かを本時の最後に考えさせ、国際理解への関心を高めるとともに、自分自身は何ができるのかという問いをもたせることで総合の学習や ISAPH の石塚さんによる出前授業につなげていく。</p>	
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法 他国の人々や異文化を理解しようとする態度や言動について自己を見つめたり、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させたりしているかどうかを児童の様子やスクールタクトへの入力の内容から評価する。</p>			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元計画2時間目の本時ではフォトランゲージを取り入れた。ラオスの人たちと自分たちの似ているところや違うところを付箋に記入して、グループごとに話をしながら写真に貼り付けることで、児童間で多様な気付きを共有できるようにした。また、全体で似ているところと違うところを整理することで、「心」の部分が自分たちと似ていること、「文化」の部分は国によって違うことに気付けるようにした。</li> <li>・単元計画3時間目には、ラオスの生活文化に沿った活動をされている ISAPH の石塚貴章さんを招き、ラオスの人々の生活やラオスでの活動を紹介していただいた。ラオスの文化や石塚貴章さんの活動とその活動を支える思いを知ることによって、自分とは異なる文化・考え方を尊重することの大切さや違うことのおもしろさを実感できた児童が多かった。</li> </ul>			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導の流れや教材を共有し、学年全体で授業実践を行えるようにした。</li> <li>・単元計画2時間目(本時)と3時間目の授業は校内の先生にも参観していただき、授業に関する感想や助言をいただいた。</li> <li>・単元計画3時間目の ISAPH 石塚貴章さんの出前授業では、参観を希望する保護者にも授業を公開した。</li> <li>・本単元とは別に、SDGs に関する意見交流会を日本各地の学校や海外の日本人学校の小中学生とオンラインで行う予定。</li> </ul>			

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<p>道徳や総合を中心として、各教科等の関連を意識しながら単元を計画し、それぞれの学習で学んだことが生かされるような単元展開にした。本単元と並行して行っている総合の進度や学校行事など、教職員と相談し時期を調整するのが少し大変だった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>単元計画2時間目の本時は、ラオスで体験したことを生かした授業実践であったため、授業で使用した写真が意図することを他の教員と共有し、ねらいに沿った授業を展開できるようにする必要がある。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISAPH 石塚貴章さんによる出前授業後には、ラオスや異なる文化に関心をもつ児童がより一層増えた。「生の話」を聞くこと、「生のもの」を見ることの有用性を実感することができた。</li> <li>・食料自給率やハンガーマップを社会や総合の学習で扱った時には、児童から「ラオスはどんなのかな？」という声が上がった。児童の外国への関心の高まりと比較対象(物事を捉えるときの視点)の広がりを感じられた。</li> <li>・単元計画2時間目の本時でオープンエンド型の授業を展開したことによって、単元計画3時間目の ISAPH 石塚貴章さんによる出前授業や総合の環境問題に関する探究学習において、「自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために」を問い続けながら学ぶ児童の姿が見られた。</li> </ul>

14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

【フォトランゲージでの児童の気づき】  
黄色の付箋: 違うところ    ピンクの付箋: 似ているところ



文化がちがう外国の人たちと  
どのようにかかわっていききたいですか。

お互い自分たちの国の文化を教え合おう。  
勉強で外国の有名なものや人物を知りたいから  
インタビューをしたい。

友達  
文化を知る・話す  
違いを認める  
やさしくする  
褒め合う

文化がちがう外国の人たちと  
どのようにかかわっていききたいですか。

自分たちの文化を伝えながら、  
共有できることについて話し合  
ったり、知らなかったことに興  
味を示して他の国の人も交流  
してみたいと思いました。

文化がちがう外国の人たちと  
どのようにかかわっていききたいですか。

文化を言い合ってその国  
りことを知りたい。文化  
が違うからありえないと  
思うけどそうゆうことも  
忍めて優しく接したい。

文化がちがう外国の人たちと  
どのようにかかわっていききたいですか。

僕は最初ラオスの文化を怖いと  
思っていましたけどその笑  
いは自分の文化で笑われている  
とおなじだからみんなと仲良く  
できるようにしていきたい

文化がちがう外国の人たちと  
どのようにかかわっていききたいですか。

お互いの言葉が分から  
なくてもポーズや手振  
りなど、共通している  
ことをして伝える。

文化がちがう外国の人たちと  
どのようにかかわっていききたいですか。

お互いの伝統や文化  
を褒め合い国どうし  
仲良くしたい。(自  
己紹介)

【自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために大切なこと】

自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために  
大切なことは何だろうか

お互いに助け合いど  
うすれば、そういう  
生活をなくせるか、  
考えていく。

自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために  
大切なことは何だろうか

・1人1人が食べ物を粗末にしないや  
給食を残さないなどちょっとしたこ  
とでも行動に移せば少しだけ変わる  
かもしれない・農家の人がお米を  
育てたり親が働いたりして学校に行  
けたり給食を食べれたりしているか  
ら自分もみんなのために働く

自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために  
大切なことは何だろうか

世界中の人々が笑顔で生  
活できるように自分の  
できることを少しずつやる  
。給食を残さない。

自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために  
大切なことは何だろうか

寄付してあげる  
色々なことにありが  
たい気持ちを持って  
生活する。

自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために  
大切なことは何だろうか

領土問題の争いや戦  
争が無くしたり、寄  
付や一つ一つの物を  
大事にする。

自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために  
大切なことは何だろうか

食料やお金などを寄  
付したり一人ひとり  
助け合うことが大切  
だと思う。

## 石塚さんのお話を聞いて

今日の石塚さんの話を聞いてわかったことは、世界中に貧しい人々がたくさんいて、日本がとても特別な国なんだと思いました。ラオスでの文化は日本と全然違うし、昆虫食も最初は嫌だなと思っていたけど、ラオスでは、その昆虫を食べて美味しいと思っているのが別に悪いことではないんだとわかりました。今日も先生たちが昆虫食を食べていて、美味しいと思えるということは、ラオスの文化は日本人としてみても、とてもいい文化だなと思いました。美味しくて、栄養もたくさん詰まっている昆虫食は意外と、いい食べ物かもしれないなと思いました。それと日本とは全く違う輸入をあまりしていないということにも少しびっくりして、自分たちの国だけで取れたもので生活が充実しているんだなと思ったら、とても素敵だと思います。昆虫食も少し食べてみたいと思えるようになりました。ラオスでも豚、牛、鶏、ヤギなどがいることもびっくりしました。トノサマバッタがのり塩味のポテトチップスの味ということにもとてもびっくりしました。ラオスは、少し貧しい国だけど一人ひとり働いて、お金を稼いでるのもすごいとおもいました。ラオスのスーパーにも油や牛乳などの日本と似ていたものも打っていてすごくびっくりしました。屋台みたいなところにも太いきゅうりや、昆虫食がたくさん売っていて、ラオスは、自分たちの文化を大切にできる、とってもいいところなんだなと思いました。多分行けないとは思いますが、ラオスに行けるなら行ってみたいなと思いました。僕も貧しい国や、戦争がなくなって、平和な世界になって欲しいと思いました。

## 石塚さんのお話を聞いて

自分は学校で勉強をすることは嫌いだけど友達と遊ぶのは好きです。ただラオスの人々みたいに学校に行けなくて友達とあまり遊べない子供もいる中で自分が学校に行けていることは幸せだと思います。自分も周りでいじめられている友達を見ているのはすごく嫌だからいじめられてしまっている子がいたら自分から注意をしたいと思いました。

自分はあまりにんじんやめだま焼きが好きではないけれど、食べ物を食べたくても食べられない子もいるから好き嫌いをしないで食べることが大事だと思います。

日本ではありえない、虫を食べることやそこらじゅうの道路にヤギや牛、豚などが道路にいたりヤシの実が落ちこちていたりすることがラオスでは普通という事がすごく日本とは違うところだな。と思いました。もし自分が、貧しい国に住んでいたら自分のことしか考えられないかもしれないけれどラオスの人は自分たちのことだけでなく日本のことも考えていてすごいなと思いました。

ラオスと日本を道徳で比べたときに違うところばかりだったからやっぱり外国と日本は違うのかなーと思ったけど世界が平和になるよという思いは日本もラオスも一緒のところだと思いました。私はラオスの食料自給率は日本より少ないだろうと答えが返ってくると思っていたが自然のものを食べていると輸入量が少ないことがわかりました。お金で買って食べるのではなく自然のものを食べるという考えの想像力がすごいと思いました。最初は話を聞いているとラオスって本当にいい国なの？と思ったけどすごくいい国だなと思いました。話を聞いていて自分もラオスに行ってみたいと思いました。

## 石塚さんのお話を聞いて

話を聞いて分かったことは、思いやりが強いです。家族のなにか行事があるなら仕事を休んでくれる、とてもすごいことだと思います。私の家は誕生日でも仕事が終わったらパーティーするから、ラオスの人がすごく羨ましいです。

ビックリしたことは、昆虫を食べることです。最初は食べたくないなと思いましたが、トノサマバッタは茹でて、焼いて、塩などをつけるとポテトチップスみたいな味がしてかつ、栄養に良いと聞いた時、食べてみたいなと思いました。昆虫食に興味を持ちました。今日、家に帰ったら他のも無いか、調べてみます。あと、ラオスの話しを聞いて他にももっと疑問に思ったことがたくさんあるので、ラオスに関係する本なども読みたいです。

寄付などをしてラオスの人が助かるのならもっとせっせして、寄付や学校の服のカプロジェクトなどに参加したいです。

今日は貴重なお話ありがとうございました。

## 石塚さんのお話を聞いて

ラオスの人たちは、十分な栄養などや、お金の稼ぐ方法もあまり無いことがわかり、自分が想像していた物とは少し違って驚きました。今住んでいる日本はとても裕福なんだと思い、ラオスなどの貧困や十分なものを食べられない人が同じ地面にいると思うと、とても悲しい気持ちになりました。石塚さんはそれを解決しようと活動をしているのを聞いてとてもすごいなと思いました。今いる自分は何ができるなどのことを考えていきたいです。ラオスのことがいろいろ知れてよかったです。

15. 授業者による自由記述

- ・児童はラオスを通して開発途上国の現状や世界の国・異なる文化の人々に対してより一層関心をもつようになった。「貧しい」という開発途上国の一面を捉えるだけではなく、ラオスの文化や価値観のすてきなところにも目を向けることができた。違いを尊重し、違いを好意的に受け入れる児童の姿が見られた。
- ・「自分や世界中の人々が笑顔で生活していくために大切なことは何か」という問いに対して、現時点では「寄付をする。」「食べ残しをしないようにする。」「争いをなくす。」「何かしてあげる。」と考えが限定的である。今後の総合の学習を通して児童の考えがどのように広がっていくのか、また自分たちにできることを実践してどう感じるのか、児童の変容を楽しみに学習を展開していきたい。
- ・2022年度教師国内研修の参加教員が昨年度5年生の担当であったことから、総合「姿二小環境会議を開こう」での児童とSDGsや環境問題との出会いが充実していた。教材や情報を共有できる環境が整うことで、国際理解教育の視点を取り入れた授業や取組がより充実していくと感じた。

参考資料:

・「新訂新しい道徳5」東京書籍

・「総合的な学習(探究)の時間のアイデア集」

独立行政法人 国際協力機構 東京センター, 2022年3月

・開発教育協会「フォトランゲージ」 <https://www.dear.or.jp/activity/1730/>



【フォトランゲージ用写真】



【写真の意図】

～言葉がなくても伝わる思いやり～  
現地の小学校での写真。床にしゃがんで現地の先生の読み聞かせを聞いていたら、いすに座っていた女の子3人が右側につめてくれた。「隣に座っていいよ。」と手招きをしてくれて、一緒にいすに座らせてくれた。



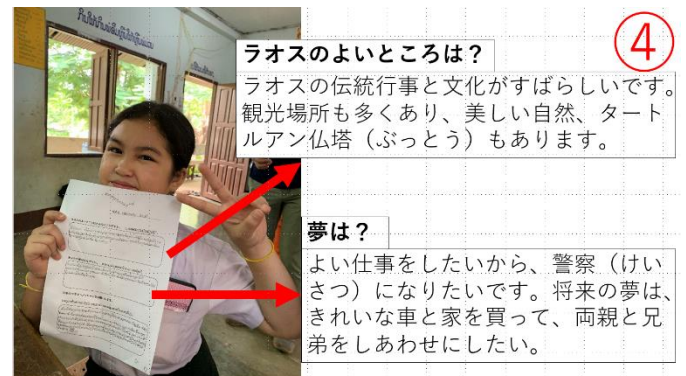
【写真の意図】

～日本の文化の広がりや文化交流のよさ～  
日本語を学ぶ学生との集合写真。日本のアニメや漫画が好きな学生が多く、図書コーナーには鬼滅の刃のラオス語版もあった。写真を見て、京都の清水寺だと分かるのは、名探偵コナンから学んだからだそう。



【写真の意図】

～食文化の違い～  
ラオスの学校の先生たちがお昼ご飯を食べている写真。竹で編んだ「ティップカオ」という器にもち米のご飯が入っている。そのご飯は手で丸めて食べるのが一般的。ご飯と一緒に食べていたのはココロギで、「食べてごらん」とすすめてくれた。



【写真の意図】

～自分たちと似ているところ～  
小学校5年生の女の子が書いた「ラオスのよいところ」と「夢」に関すること。ラオスの同年代の子も、自分の国の伝統行事や文化を大切にしていること、夢をもっていること、家族を大切にしていることに注目させ、似ているところがあることに気付かせたい。